



島根県立三刀屋高等学校 掛合分校

校長 癸 『ほんりゅう』

【9月号②】令和6年9月20日



■坂道を歩き、階段を上る。その先に…

※本稿は『かけこ』(令和6年9月20日発行)を加筆修正しています。

猛暑・酷暑と表現されたこの夏も、9月に入り朝夕は涼しい風を感じられるようになり、学園歌にある「さ霧清らに」の情景にふさわしい季節となってきました。掛高生は、登校日には毎朝校舎のそびえる佐中の丘に向かって登校してきます。佐中神社辺りの標高は約205m、校舎が位置するのは約220m。つまり15mほどの高低差を毎朝上ってくるわけです。途中まではなだらかな坂が続きますが、最後は22段の階段が現れます。この階段を上り切って初めて校舎にたどり着けます。階段を一段一段踏みしめながら上ってくる姿を見る度に、一步一步努力を積み重ねながら自分の目標に向かって歩を進めていく掛高生の姿を重ね合わせています。歩くペースは一人ひとり異なってもかまいません。時には休憩することも必要です。ゆっくりでも少しずつ進んで行けば必ず目標にたどり着けます。目標にたどり着く直前には何かしらの困難が待ち受けていることがあるかもしれません。そんな時、掛高の登校路を思い出してもらいたいです。坂道をゆっくり歩き、階段を一段一段上るように自分の目標に向けて一步一步進んでください。急ぐ必要はありませんよ。

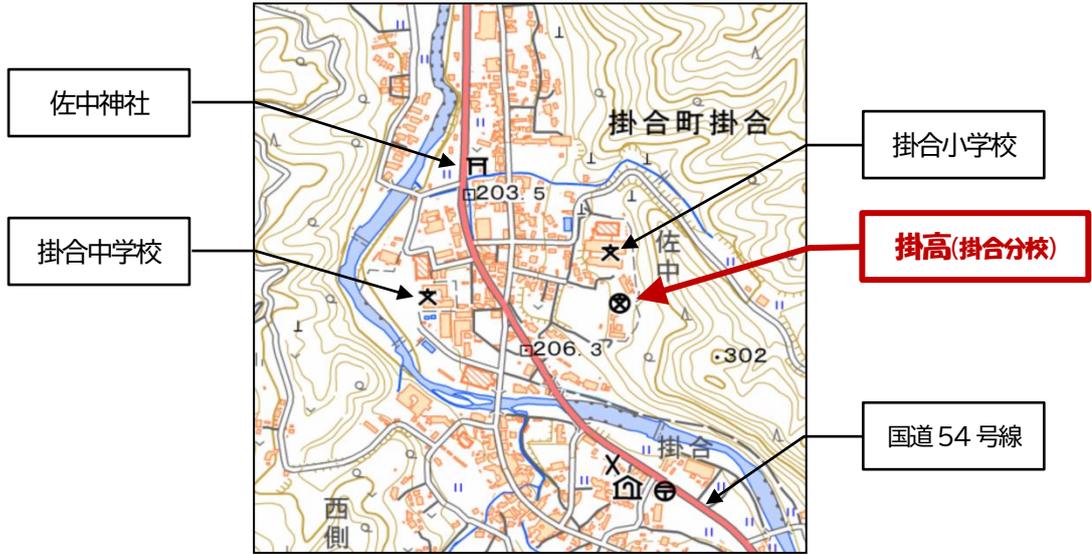
体育祭や文化祭などの学校行事の際、あるいは夏休みや冬休みといった長期休業中には、卒業生の皆さんが懐かしい顔を学校にのぞかせに来てくれます。就職や進学等それぞれの道を歩んでいる皆さんが、私たち教職員に近況報告をしてくれたり在校当時の思い出に花を咲かせたりしてくれます。それは単なる世間話の延長のようにも見えますが、中には「話を聞いてもらいたい」とか「今少し悩んでいるんだけど」という理由で分校を訪れてくれる皆さんもいると思います。ここに休みが欲しいなあと感じた時は、いつでも分校に遊びに来てくださいね。分校で過ごした日々を思い起こすことで、自分の現在地を再確認できるのではないのでしょうか。

「掛高には『本物』がある」を掲げ、地域の皆様からのご支援・ご協力を受けながら掛高が実践してきた「本物の少人数教育」「本物の地域密着」—これらの教育活動を通して獲得した知識や経験は、きっとそれぞれの人生を歩んでいく掛高生の道しるべになるはずです。そして卒業後も掛高が“心のよりどころ”と思ってもらえるような場所でありたいと思っています。

(ある日の登校風景)



【掛高 (掛合分校) 周辺】



(地理院地図より作成)